



きぬがさ

〈校訓〉 時を守り 場を浄め 礼を正す

No.1 衣笠中学校だより
令和4年 4月 22日
田辺市立 衣笠中学校
校長 嶮口 善一

人との出会いは大切な宝もの！ 令和4年度の始まりにあたり～

学校の花々が美しく咲きほこり、新たな希望と期待が膨らむ季節、衣笠中学校に春が訪れました。

令和4年度は、学級数は1年と2年が3クラス、3年生が2クラス、特別支援学級が2クラス、合計10学級、生徒数は77名の新1年生を迎え、全校生徒226名で衣笠中学校がスタートしました。卒業生は76名だったので、今年度は1名増となります。全国的に少子化が進む中、生徒数が増える学校は非常に少ない状況にあります。田辺市においても、全児童生徒数は昨年度よりも132名少なくなっています。そのような中、衣笠中学校は生徒が増えている数少ない学校です。

保護者の皆様方、改めまして、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

新年度の始まりに当たり、生徒にこれからの時代をたくましく生き抜く力を付けなければならないと決意を新たにしております。生徒一人一人に「夢に向かって未来を切り拓く」力を付けたいと考えています。



さて、4月8日（金）の入学式では、新型コロナウイルス感染防止のため、特別な形での実施となりましたが、厳粛な雰囲気の中、緊張しながらも、中学校入学の喜びと頑張ろうという決意に満ちあふれる姿を見て、とてもうれしく思いました。保護者のみなさまも感慨深いものであったと思います。同じく4月8日（金）の午前中に、2・3年生が登校し始業式を行いました。始業式は、まさに1年のスタートとなる大切な学校行事です。春休みを経てそれぞれの学年において進級しました。新しい担任や教科担当の先生に早く慣れ、学級の仲間を大切に、充実した1年間にしていきたいと思います。

入学式の中で生徒の皆さんに入学にあたり、「人を大切にする」ということについて、三つの視点で話しました。

①「自分」を大切に

自分の人生の主人公は自分以外にあり得ない。どんなときも人生の主人公である自分の存在を否定しないでほしい。

② 77名の仲間を大切に

3年間の学校生活を豊かにするには、「自分と違う意見があるということを知る」ことが大切なこと。自分の意見はしっかりと持ちながらも、自分と違う意見に耳を傾けることは、人間として成長していくためにとても大切なこと。そして、それは大人も含めた全ての人に必要なこと。

③ 言葉を大切に

言葉を大切にするとは、人を大切にするにつなげる。思いやりのある言葉に人は救われ心ない言葉に人の心は傷つくもの。どうか、人を大切にする温かい心を持った人であって欲しい。

教職員一同は、気持ちを新たに、一人一人の成長を全力でサポートするとともに、何よりも生徒が安心して学べる学校づくり、地域の皆様に信頼される学校づくりに努めてまいります。保護者、地域の皆様には、本校の教育の推進につきまして、御理解と御支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

校長 嶮口善一・教職員一同

令和4年5月号 万呂 公民館報

発行：田辺市万呂公民館
館長：向井 洋一
主事：橘 亜門
田辺市中万呂46番地の3
TEL：25-1554
FAX：81-3740

えびね・山野草展を開催しました

4月23日（土）・24日（日）万呂コミュニティセンターで、万呂の春の恒例行事「えびね・山野草展示会」を開催しました。会場の万呂コミュニティセンターには219鉢のえびね・山野草が展示され、色とりどりのえびねや山野草の花と香りでいっぱいになりました。市内のみならず遠方（三重県や大阪府等）からもお越しいただき、多くの来場者の方々にぎわいました。



えびねって何だろう？

上記にて「えびね・山野草展示会」についての記事を掲載しましたが、えびねとはどんな植物かご存じでしょうか？

えびねとはラン科カランセ（エビネ）属の植物のことで、日本や中国、東南アジアなどに150種以上が分布します。その全てを総称してえびねと呼ぶ場合もあれば、日本原産の物だけをえびねと言うこともあります。園芸的には、春咲き種、夏咲き種、冬咲き種など花の咲く時期によって大きく分けるのが一般的で、その中でも最もポピュラーな日本種の春咲きのことをえびねと呼ぶことが多いそうです。

続いて、日本原産の春咲きえびねについて紹介します。

地表近くにできる根茎がエビのように曲がって連なっているため、えびねと呼ばれています。主に開花時期は4～5月、葉が出てくるとともに花茎を伸ばし十数輪の可憐な花を咲かせます。花の大きさは1～2cmで花色や形は種ごとに特徴があるだけではなく、同じ種の中でも非常に個体差があり、その多様性から「2つと同じものはない」と形容されることもあるようです。

えびねは、多種多様で色鮮やかな植物なので、気になった方は是非育ててみてはいかがでしょうか。



「万呂緑の会」のご紹介

前のページにて「えびね・山野草展示会」について紹介しましたが、ここではこの展示会でご協力いただいている「万呂緑の会」の紹介をさせていただきます。

万呂の開発が進み、他町村から移った人々が増加してきた頃、人々の交流親睦を図るための新しい町づくりの方向として最初に取り組みられたのは体育活動でした。しかし年配の人々にとってスポーツは馴染みにくく、他の方法で新旧町民の交流を進めるものはないかという願いから生まれたのが「みどり趣味の会」だそうです。

清水正治公民館長時代（昭和47年）、町内各班に委員を作り、植木や花の栽培に関心を持つ人を誘い合って会を結成しました。初めは庭園、盆栽、蘭、菊、さつきの五部門を設け、会員がそれぞれに所属する部に入り、市内に住む笹野善行氏等を講師として招いて講演会を開き、指導を受けていたそうです。現在は五部門を一本化し「万呂緑の会」に改名しています。



町民への公開展示会としては、以前は、春にえびねを主とした蘭、5月にはサツキ、秋11月には菊を中心に会員が丹精込めて育てた花木、盆栽が出品されていました。別室でふるさとの歴史展も開かれたようで、回を重ねるにつれて会員たちの腕も上がり、栽培の指導や助言、自分たちで殖やした苗や小株の頒布も行われました。町民はもとより市内各地から来場する愛好家も多く、会場のあちこちでお互いの知識、技術、経験を交流する場面が見られるようになりました。

現在では4月の「えびね・山野草展示会」、8月に開催される「おばけカボチャコンテスト」、「秋の総合展示会」においてご協力いただいております。「万呂緑の会」は和気あいあいの雰囲気の中で、自然を愛し、植物の神秘を追求し、会が盛んになることを願って活動を続けています。

公民館としましても、住民の交流を深めることを目的に、古くから活動されている「万呂緑の会」の皆様にご協力いただきながら、公民館活動を通して今後も万呂地域を盛り上げていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【参考文献】

万呂郷土誌編集委員会、「郷土誌 ふるさと万呂」.万呂郷土誌刊行委員会,1994

公民館LINEアカウントの登録はされていますか？



公民館のイベント情報やお知らせを発信しております。

是非友だち登録をお願いします！！

登録方法

- ① ID検索で「@365tfmbd」を検索する。
- ② 右のQRコードを読み取る。



こうきゅう

～毎日の食事がお口を救う～【口救レシピ】の発行が始まります！

近頃、会話が少なくなりお口が運動不足ではありませんか？

お口が大切なのはわかっているけど、お口の健康への意識は低いことが、県の調査(R2和歌山県高齢者等生活意識調査)で分かりました。

そこでやすらぎ対策課では、毎日の食事を通してお口の健康を救っていただきたいと考え、【口救レシピ】を令和4年5月から発行します。

お家でできる簡単なお口体操や、お口の運動不足解消料理など、色々な方向からお口の救済方法を紹介していきます。

2か月に1回奇数月に発行します。どうぞ活用ください！

お問合せ：やすらぎ対策課（電話：0739-26-4910）



着任のご挨拶

この度、4月の人事異動により万呂公民館主事に着任いたしました橋亜門と申します。

昨年度までは、三栖公民館・長野公民館主事として2年間勤務させていただきました。

万呂地域では、サークル活動や地域活動も活発にされていると聞いています。これから万呂公民館主事として、活気あふれるこの地域で、地域に密着した仕事に携われることをとても楽しみにしています。

何かと至らぬことも多々あるかと思いますが、皆さまの御指導、御鞭撻を賜わりながら、少しでも早く、万呂地域の皆さまの力となれるよう精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

橋 亜門

明るい笑顔 街いっぱい運動

【実施日時】 5月2日（月）7：30～8：00
6月1日（水）同上

【実施場所】 学校、自宅前、交差点など



移動図書館「べんけい号」

【日 時】 5月6日（金）
6月1日（水）

【場 所】 万呂コミュニティセンター
※ 貸出カードをご持参ください。

